

令和7年度第8回川口市朝日環境センター施設整備審議会 議事録

- 1 開催日時 令和7年8月27日（水）
午後2時00分～午後3時30分まで
- 2 会 場 リサイクルプラザ棟4階研修室
- 3 出席委員 (1) 川口市朝日環境センター施設整備審議会委員：13名
市民 : 大谷委員、大塚委員
学識経験者 : 八鍬会長、藤原副会長、橋詰委員
民間団体からの選出者：小林委員、林委員、藤田委員、
石川委員、中原委員、浅羽委員、
上倉委員、今井委員

(2) 事務局：18名
須藤環境部長、大津資源循環課長、岩田環境施設課長、
竹村朝日環境センター副主幹、岩下リサイクルプラザ所長、
塚平鳩ヶ谷衛生センター所長 他6名
公益社団法人全国都市清掃会議 奥津技術部課長
パシフィックコンサルタンツ株式会社 山崎技術課長 他4名
- 4 欠席委員 2名 田中委員、中村委員
- 5 傍聴人 5名
- 6 議事等 議事
(1) ごみ処理方式について
(2) 朝日環境センター施設整備基本計画（案）について

7 審議会議事録

1 開会	
2 議事	
(1) ごみ処理方式について	
事務局	資料1「朝日環境センターに導入するごみ処理方式について（令和6年度調査を踏まえた見直し）」に基づき説明。
委員	今回、処理方式を導入可能性のある3方式に絞っているが、更に候補を絞って良いのではないか。現在、朝日環境センターでは流動床式ガス化溶融炉を用いているが、現在整備されている殆どの施設においては導入されていない方式であり、今後同方式を導入する可能性は低いと思われる。導入可能性が低い方式を残しておく必要があるのか。候補となる方式を絞り、手続き等の簡素化を狙うことがよいのではないか。
議長	今回はメーカーの意向を踏まえた調査結果を反映させた絞り込みである。発注の際は絞り込んだ方式で発注を行う可能性もある。
委員	採用可能性がない処理方式を候補に残し、検討を進めていく必要はあるのか。
議長	他審議会でもこの3方式は残る傾向にある。今後、川口市にとって望ましい処理方式という観点で事業方式の絞り込みを行うことになると考えている。今回の絞り込みはその前段階と考えていただきたい。
(2) 朝日環境センター施設整備基本計画（案）について	
事務局	資料2「朝日環境センター施設整備基本計画（案）概要版」に基づき説明。
委員	3点質問がある。 1点目：5.余熱利用計画において「周辺住民の意見を聴取し」とあるが、どのように聴取する想定か伺いたい。 2点目：7.施設整備計画(1)配置及び動線計画において煙突のみを残置させる計画が想定されている。老朽化している煙突を残すことは問題ないのか。費用の問題から残置することを想定しているのか。 3点目：7.施設整備計画(2)災害計画において、災害時に備えて必要な電源を確保し、一時避難場所として活用することを想定されているようである。一時避難に備えた整備をするのであれば避難所としての指定も行ってよいのではないかと考えるが、今後の想定について伺いたい。
事務局	1点目：朝日環境センター連絡協議会にて意見聴取手法を検討する想定である。現在のところ、対応は進められていない状況にあるため、今後の検討事項

	として考えている。 ２点目：費用削減を図るため、煙突の残置も視野に入れている。参考事例として、武蔵野市のクリーンセンターにおいて、煙突を残置させつつ建替えを行った実績がある。今後は、煙突の老朽度合いを調査し、コンクリート等の状態を踏まえたうえで検討を進めていきたい。 ３点目：周辺住民の一時避難場所としての活用は可能としたいが、本施設は廃棄物処理を中心とした設備とするため、現時点では防災計画上にて避難所に指定することは考えていない。
委員	２点目について、今後の災害などを想定すると、老朽化していると思われる煙突を再利用することはかなり不安である。安全面も十分留意して検討を行っていただきたい。また３点目について、現時点では避難所の指定を想定していないとのことであるが、周辺地域との取り決め等を行い、周辺住民がしっかりと利用できるよう考慮いただきたい。
事務局	意見として承った。
委員	サンアール朝日は、コロナ禍以降利用者数が減少し、財政の負担となっている。余熱利用施設の規模を縮小し、売電に充てることで財政負担を軽減させることがよろしいのではないかと。売電以外にも、サンアール朝日を高齢者向けの温浴施設にすることや、運営を第三者機関に委託することも考えられるのではないかと。
事務局	売電収入を増やすことも重要と考えるものの、サンアール朝日は周辺地域への還元施設という位置づけでもあるため、慎重に検討を進めていきたい。サンアール朝日の老朽化も著しいため、改修以外の方法についても併せて検討していきたい。
委員	概要版にはリチウムイオン電池に関する記載が見られない。本編には火災の原因となり得る旨や、処理場所を設ける旨が記載されているが、実際の説明時に用いられる概要版には記載がない。今後の議会説明や市民説明の際にリチウムイオン電池について触れないことは望ましくないため、リチウムイオン電池の処理についても明記すべきではないかと。
事務局	承知した。ご指摘を踏まえ、火災の原因となり得るリチウムイオン電池について、概要版を修正する。
事務局	資料３「資源化施設整備基本計画（案）概要版」に基づき説明。
委員	２．整備計画（７）プラント機械設備基本計画において、プラ新法３２条と３３条の違いや、各方法における実施事業者の違いなど、丁寧に記載した方がよい。概要版であるため詳細に記載する必要はないと考えるが、異なる点については記載がある方が望ましいと考える。

事務局	承知した。ご指摘を踏まえ、プラ新法 3 2 条、3 3 条の違いが分かるよう概要版を修正する。
委員	ある研究では、高齢化に伴ってごみの分別が困難になるという結果が出ている。高齢者の増加が見込まれる川口市において、長期的なコスト削減傾向があることから一括回収の方が望ましいと考えられる。一方、一括回収とすると異物混入リスクの上昇、分別効率の低下、劣悪な環境における手選別作業といったデメリットが懸念される。 世界の潮流としては一括回収＋機械選別であるという報告書もある中で、川口市において機械選別の導入可能性はあるのか。
事務局	前提として、日本では高度経済成長期における急激な廃棄物の増加に対応するため分別対応が始まった。その頃は、機械化がされていなかったことを背景に現代までは精度の良さから日本の選別は今も手選別が主流となっている。しかし、人口減少や作業環境を踏まえて手選別が望ましくないという意見もあり、機械選別の技術は発展しているところである。
事務局	川口市としては一括回収の方が市民負担は減ると思われる。今後検討を行って決めていくが、おそらくプラスチック使用製品廃棄物は一括回収となるのではないかと考えている。 また、機械選別の導入について、選別工程において一定の機械導入は想定している。
委員	1 2 月のパブリックコメントでは資源化施設整備基本計画も対象になるのか。事業方式が不確定な状況でパブリックコメントを行うと、分かりにくいのではないかと。方針の決定はパブリックコメントに間に合わせる想定か。
事務局	現在は事業者への意見聴取を行い、意見を整理しているところである。パブリックコメント実施までのスケジュールを考慮すると、方針の明記は難しいと思われる。
委員	パブリックコメント時点で手法の方針が明確になっていないまま、事業者選定に進むことになるのか。市民への説明がないまま事業者選定に進むことは望ましくないと思われる。
事務局	来年度選定方法の検討を行い、令和 9 年度に実際の事業者選定を行う想定である。また、現在想定している整備手法があるため、詳細な記載は難しいものの、現時点での方針を記載し、パブリックコメントに臨めるようにしたい。
委員	概要版第 1 章において、「中長期的観点」と記載があるが、令和 13 年までの 6 年程度を中長期と表すことは違和感である。短期的あるいは中期的程度の記載が望ましいのではないかと。
事務局	承知した。ご指摘を踏まえ修正する。
(3) その他	

事務局	基本計画についてはパブリックコメントの準備もあるため、9月末を目途に原稿を仕上げる想定である。今後、質問や意見があれば9月19日（金）を目途にご連絡いただきたい。
議長	全体を通して何か意見・質問はあるか。他になければ本日の議事を終了とする。
事務局	次回の第8回審議会は、令和7年12月19日（金）14時より、リサイクルプラザ4階研修室にて開催する。
4 閉会	

会議の概要については、以上のとおりです。

令和7年9月26日

川口市朝日環境センター施設整備審議会

会 長.....(八鍬会長署名).....

委 員.....(中原委員署名).....